



京都大学防災研究所
Disaster Prevention Research Institute
Kyoto University

一般研究集会

2025WS-04

流域治水と下水道 DX を活用した内水 対策向上を考える研究集会

A research symposium on improving
stormwater management through the
basin-scale flood control and sewer
system DX

令和 8 年 3 月

March, 2026

研究代表者 渋尾 欣弘

Coordinator Yoshihiro Shibuo

一般研究集会（課題番号：2025WS-04）

集会名： 流域治水と下水道 DX を活用した内水対策向上を考える研究集会
主催者名： 渋尾欣弘 ※共催の場合
研究代表者： 渋尾欣弘
所属機関名： 高知大学
所内担当者名： 川池健司
開催日： 令和 7 年 8 月 29 日
開催場所： 京都大学防災研究所 S-519D
参加者数： 66 名（所外 64 名、所内 2 名）

研究及び教育への波及効果について

大学、行政機関、民間企業の研究者・技術者が参加し、流域治水と下水道 DX を活用した内水対策向上に関する課題を共有した。とくに、河川分野と下水道分野、研究と実務の間で情報交換と意見交換を行うことで、分野横断的な連携の重要性を再確認する機会となった。また、学生にとっても、多様な立場の参加者の議論に触れることで、内水氾濫対策に関する社会的要請と実務上の課題を理解する教育的機会となった。

研究集会報告

(1) 目的

気候変動の影響を受けて国内外で内水氾濫が多発しているが、多くの課題がありその解決に向けての議論が求められている。しかし、研究者と行政担当者、また河川分野と下水道分野との協力は必ずしも十分にされているとはいえない。流域治水政策のポイントはそのような垣根を越えた対話・協力であり、本研究集会では、研究者と行政担当者が、それぞれの立場から内水氾濫の被害を軽減するための課題について議論することを目的とする。

(2) 成果のまとめ

流域治水と下水道 DX を活用した内水対策向上を主題として、大学、行政機関、民間企業の参加者が、それぞれの立場から現状と課題を共有した。議論を通じて、内水氾濫対策の高度化には、河川分野と下水道分野の連携に加え、研究者、行政担当者、実務者の継続的な対話が不可欠であることが改めて確認された。とくに、浸水予測モデルの精度保証に向けた実測値や現地確認による検証、河川と下水道で異なる解析モデルや計画規模の整合性、気候変動を踏まえた降雨外力の設定、ハード対策の効果の定量評価と優先順位の考え方などが主要な論点として共有された。加えて、下水道台帳を含む管路データ整備、維持管理の高度化、下水道 DX の推進が、内水対策と流域治水の実装に不可欠であることも確認された。参加者からは、河川管理者と下水管理者の調整や行政上の役割分担を含む実務的課題を共有できたことは有意義であり、今後も継続的な議論が必要であるとの受け止めが多く示された。

(3) プログラム

2025 年 8 月 29 日（金）13:00-17:00

- 13:00 – 13:10 開会挨拶，趣旨説明
- 13:10 – 13:40 上下水道行政の最近の動向について（浸水対策，管路メンテナンス）
外園明成（国土交通省大臣官房参事官（上下水道技術）付 課長補佐）
- 13:40 – 14:10 気候変動下における地下空間の浸水対策のあり方
尾崎平（関西大学 教授）
- 14:10 – 14:40 道路網から推定した内水氾濫解析のための仮想下水道網
松井春樹（京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 D1）
- 14:40 – 15:00 休憩
- 15:00 – 15:20 気候変動を踏まえた大阪府域における降雨分析について
石川貴士（大阪府 都市整備部 河川室）
- 15:20 – 15:40 静岡県浜松市内における流域治水（浸水対策計画）の事例
立松敦史（中日本建設コンサルタント）
- 15:40 – 16:00 河川計画からみた下水道施設の評価
山中威士（三井共同建設コンサルタント）
- 16:00 – 16:20 自動車の流送を含む市街地の浸水解析
西田渉（株式会社 PAL 構造）
- 16:20 – 17:00 総合討議
- 17:00 閉会

(4) 研究成果の公表